

【国家試験対策について】

理学療法学科：北村教員

理学療法学科では、クラス全員の国家試験合格を目指し、10月末から対策を始めます。

今年も例年通り、気心の知れた者数人でグループを作り、対策を行う予定です。

具体的な勉強方法としては、まずは過去問を各自解き、わからなかったことを調べた後にメンバー間でやりとりするというサイクルをひたすら繰り返すこととなります。範囲が膨大なことに加え、今年からカリキュラム変更に伴う出題傾向の変化も予想され、時には心が折れそうになることもあると思いますが、メンバー同士で助け合い、乗り切ってくれると信じています。

ご家庭でもあたたかく見守っていただければ幸いです。よろしく願いいたします。

作業療法学科：石井教員

9月中旬に4年生保護者様宛で送付させて頂きました通り、9月末より国家試験の対策期間へ入っていきます。予定としては、教員作成の模試と市販の全国模試を実施致します。10月1週目より成績の下位4名に関しましては、勉強の進め方や理解度の把握の為、居残り勉強の対応を取らせて頂きます。10月までは18時半、11月は19時、12月・1月は19時半までを予定しております。

公共の乗り物の時間等もあるかと思いますが、必要に応じてお迎え等のご検討をお願い致します。(吹雪等の天候事情の際には早めの帰宅を検討させて頂きます。)

模試等のスケジュールに関しましては、学生へ配布しております。そちらをご参照頂ければ幸いです。

その他、勉強の進め方としましては、午前中はグループワークにて理解を深めあう時間とし、午後からは学校内にて個人勉強を進めていく形式にて実施していきます。

また、1月の模試の成績等によっては担当教員を決め個別対応を強化しながら合格へ向けて取り組んでいきたいと考えております。

保護者の皆さまには学生へのサポートの程、お願い申し上げます。

看護学科：宗像教員

今年も3年生の担任を受け持たせていただいている宗像です。2月に行われた看護師国家試験では、13回生34名が合格しましたが、残念ながら3名が不合格となり2年連続の100%合格とはなりませんでしたが、しかし、国家試験直前の追い込みの時期には1人1人が集中し、声を掛け合いながら教え合うことで全員が合格するレベルまで学力的にはあげることができました。結果として力を出し切れるよう学生の気持ちを整えてあげられなかったのは心残りですが、『全員で合格！』という強い気持ちで挑んだ13回生は担任として誇りに思っています。

今年の国家試験では1発勝負の怖さをまざまざと感じました。ただ単に学力を上げるだけではなく、いかに心を落ち着かせ試験当日をむかえ力を発揮できるかが勝負となります。クラス全員が、その1回の試験に全ての力を出すことができるよう気持ちを作っていくというのはとても難しいことです。国家試験当日、午前の試験が終わった後に不安が強く担任に連絡をしてきた学生が何人かいました。また長い待ち時間と試験時間のため午後に集中が切れてしまったということも学生から聞きました。いつものリラックスした状態と不安の強い中で受けた試験では、やはり点数に差がでてきます。

そのため来年、国家試験に挑む14回生には学力の向上はもちろんですが、気持ちを整えることの重要性を説明し取り組んでいるところです。ここでは保護者の方へ向け、国家試験対策として重点的に取り組んでいる内容を3点ほどご紹介させていただきます。

1つはチームで勉強に取り組むということです。チームというのはクラス全員という意味もありますが、1人ではなく2人以上のグループで勉強に取り組むということです。1人だと気が進まないことやスマートフォンなどの誘惑に負けてしまうことがあります。2人以上で取り組むことで集中して取り組むことができます。またチームで取り組むメリットに、自分の学力を客観的に理解できるということがあります。友達と一緒に勉強するからこそ、自分の実力がどの辺にいるのかを把握することができ、それは国家試験を間近に控えたときに「みんなと同じだけ理解しているから大丈夫」という安心に変わります。

もう1つは能動的に勉強をする習慣を確立することです。担任を中心に4月から毎日のように国家試験対策を行っていますが、これは学生にとっては受動的な勉強です。基礎的な学びを得ることや学習の習慣づけという意味では重要と考えています。しかし、受け身のままだとなかなか点数は伸びません。毎年、学びの習慣がつき効果的な学び方を理解した学生が、能動的に勉強を始めると短期間でクラスの上位に挙がってくるケースが多くみられます。その点、14回生はまだまだ受け身の学生が多い…。この点については今後期待ですね！

最後の1つは健康を保つことです。健康というと身体的なことを思い浮かべる方も

多いかもしれません。もちろん身体のどこも痛くないだとか、痛みを緩和するということは重要なのですが、ここで言う健康は精神的にも社会的にも安定しているという意味になります。看護師は人に対する直接的なケアが求められます。そのため看護学生は知識を身につけ、技術を評価され、実習では実践が求められます。不安を強く感じる場面や自己効力が下がることは誰にでもありますし、看護学生としてや看護師として今後続けられるかと揺れ動くこともあります。

担任としてそのような学生の気持ちに寄り添って話を聞いてあげられるように心がけているつもりです。しかし、やはり学生の健康について大きく影響するのは家族の中で安心して過ごすことだと思います。どうか国家試験に挑む14回生が残り半年を健康で過ごせるようご家族の方にサポートしていただければと思います。それは家族の方が笑顔でいてくれること、おいしいものを食べさせてくれること、目を見て話を聞いてくれることで十分です。家族のみなさんもチームの一員です。ワンチームで国家試験の全員合格を目指しましょう！

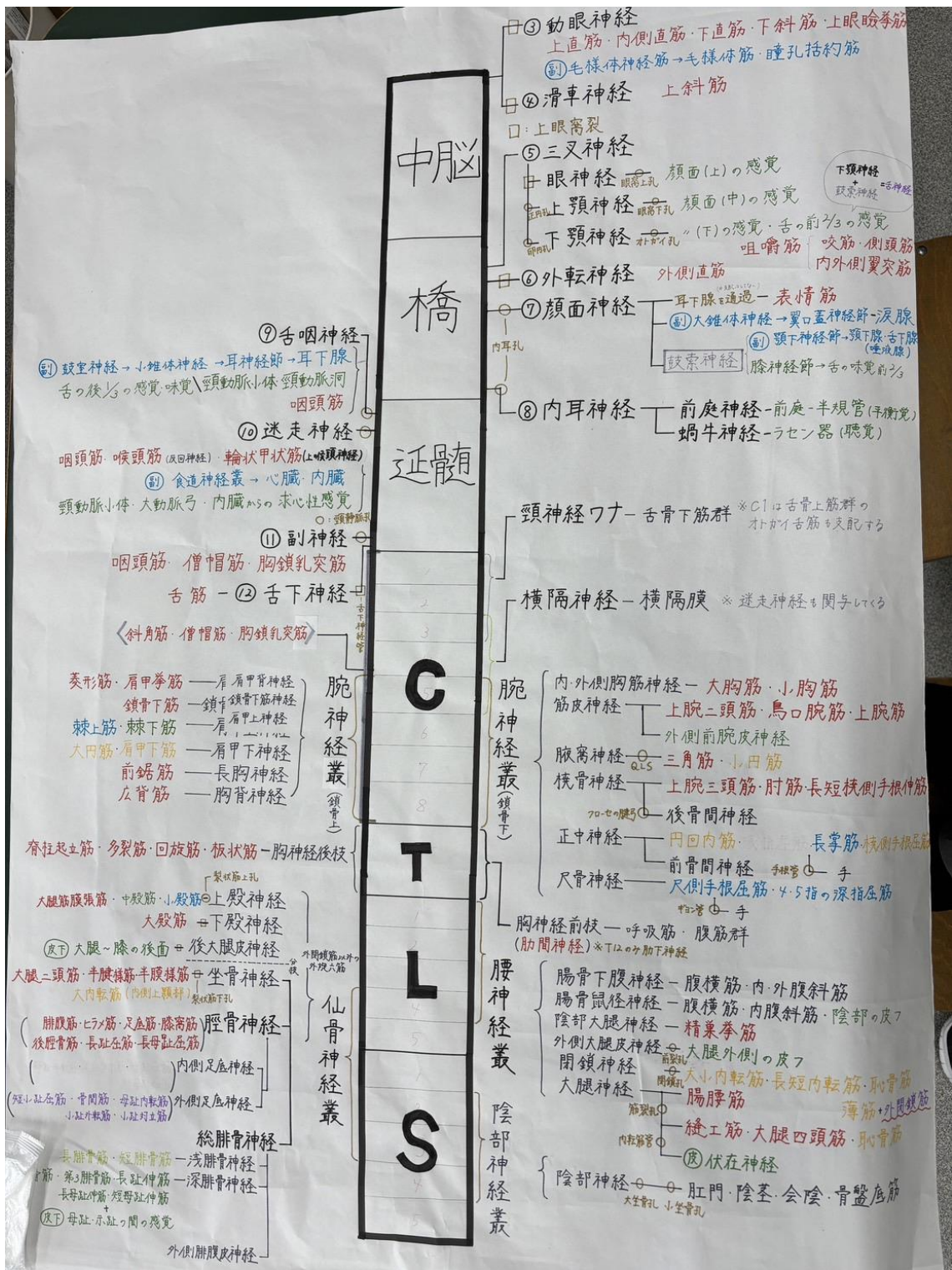


図1. 学生が作成した資料。中脳～脊髄を出入りする神経系の名称を記憶するため、チャートを作成し、それぞれの名称や機能を理解し記憶していきます。膨大な情報も一つ一つ丁寧に学んでいけば全体を理解していけるものです。プロの資格を目指す道程はなかなか厳しいですが、今は挑戦するのみです。



図2. 二人が集中して勉強している様子。一人ではすぐに遊んでしまったり、気分が乗らなくても小グループで勉強すると、しっかりと毎日集中力を保って勉強できるようです。その結果、これまでの人生で最も勉強したという実感となる国試対策になります。

北都での教訓：成績は才能ではありません、環境が大きく影響するのです。